

2018年度 大学自己点検・評価(理工学部)自己点検・評価総括用シート 1

<理工学部の教育研究目標の進捗状況>

| 教育研究目標(タイトル) | | 評価指標 | 評価尺度 | 進捗状況 |
|--------------|--|---|--|--------------------------------|
| 目標1 | 幅広い視野と柔軟な思考力をもち、自然科学・科学技術の知識を生かして社会貢献できる人材の育成。 | 実社会を学び、幅広い視野と柔軟な思考力を育むハンズオンラーニングプログラムへの参加学生数 | A: 250名以上 B: 200~250名 C: 150~200名 D: 150名未満 | 2018年度目標値 B |
| | | | | 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) B |
| 目標2 | 実践的・体験的教育による実社会の課題解決のための応用力養成。 | 実社会の課題解決のための応用力が養成できたかの指標として卒業時にアンケート調査を実施し、6年後には学習満足度が80%以上になるようにする。(2015年度;未実施) | A: 80%以上 B: 60%~80% C: 40%~60% D: 40%未満 | 2018年度目標値 B |
| | | | | 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) B |
| 目標3 | 自然科学・科学技術の知識を生かして、国際的に活躍できる人材の育成。 | 「科学技術英語」・「千刈集中英語実習」、その他の関連科目・研修等に参加した学生らにアンケートを取り、成果・満足度(項目「積極的に取り組んだか」「授業目的に即した成果が得られたか」「授業に満足したか」等)を測る。 | A: 80%以上 B: 60%~80% C: 40%~60% D: 40%未満(または未実施) | 2018年度目標値 B |
| | | | | 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) B |

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

- ・ダブルチャレンジの充実、深化に向け、全学取組みにあわせたハンズオンラーニングの機会増加とエンカレッジを推進した。(目標 1)
- ・卒業生アンケートの実施により実社会における課題解決力の達成度評価を試みた。目標の評価指標として適切かどうかについては検討が必要であるが、集計結果を執行部で共有することにより課題を認識することができた。(目標 2)
- ・理系における ESP (English for Specific Purpose) 教育の充実化を図る目的で、3 年次の科学技術英語の時間割、開講形態に工夫を凝らし受講者数の安定化につなげた。また科学技術英語、「千刈集中英語実習」についても学生の満足度は B 評価を維持できた。毎年プログラムの内容について改善点等の振り返りを行っていることによるものとする。TOEIC の得点目標 (500 点) および達成比率 (所属学生の 20%) についてはこの 3 年間で達成できている。(目標 3)
- ・専門分野が多岐にわたる理工学部において、その専門性をカバーしつつ専門外の学生にも有益となる海外プログラムを充実することで、海外プログラムへの参加者数が増加した。(目標 3)

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・自己点検・評価の PDCA サイクルが有効に機能している様子がうかがい知れます。(A)
- ・三年間の取組みが適切に行われています。
- ・ハンズオンラーニングに注力するのであれば、理工学部が実施しているハンズオンラーニング科目 (学部独自科目) を増やすことも検討する価値はあるかと思えます。(B)
- ・各目標については、取組みが進捗していることが伺えます。(C)
- ・適切に点検・評価できていると考えます。(D)
- ・教育研究目標に対する達成度評価の試み、各目標の達成や目標値の維持に向けた取組みなど、積極的に自己点検・評価に取り組んでこられたことがうかがえます。引き続き学部での自律的・積極的な取組みを期待しています(E)
- ・全体として適切に自己点検及び評価が実施されていると思えます。(G)
- ・引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展が期待できます。(H)